

平成24年2月10日(金)
沖縄県福祉保健部 健康増進課
担当：棚原、松本
098-866-2209

ノロウイルスによる集団発生事例について

今般、社会福祉施設においてノロウイルスによる集団発生事例が発生したため、広く県民に情報提供と予防の徹底を呼びかけます。

[集団発生の概要]

中部福祉保健所管内社会福祉施設において、2月1日(水)から6日(月)にかけて、下痢、おう吐、発熱等の有症患者が発生。

- ・患者数：10日現在、入所・通所者28名中15名、職員24名中6名、計21名。ほぼ全員が受診。うち入院者6名であるが、いずれも経過良好で本日現在5名退院(1名はノロは回復しているが、別疾患で入院中)。
- ・7日以後、新たな有症患者の発生なし。
- ・年令等：入所者等70代から90代。男性4名、女性17名(職員含む)
- ・6日 中部保健所に嘔吐・下痢患者が複数発生しているとの通報あり。施設の聞き取り調査、消毒指導等実施。
- ・9日、病院受診した患者のうち、糞便5検体(5名)についてノロウイルス陽性が判明。
- ・10日 中部保健所が立ち入り調査・指導予定

[ノロウイルスについて]

ノロウイルスは手指や食品等を介して、経口で感染し、ヒトの腸管で増殖し、おう吐、下痢、腹痛などを起こします。健康な方は軽症で回復しますが、子供やお年寄りなどでは重症化したり、吐ぶつを誤って気道に詰まらせて死亡することがあります。

潜伏期間は24～48時間、主症状は吐き気、嘔吐、下痢、腹痛であり、発熱は軽度。通常これらの症状が1～2日続いた後、治癒し、後遺症もありません。治療は輸液などの対症療法に限られます。

毎年、感染性胃腸炎(ノロ、ロタウイルス等)の定点医療機関報告数は、全国80～120万人、沖縄3～5千人の発生報告

感染性胃腸炎は、通年で発生しているが、本県では、例年12月～4月中旬まで患者報告数が特に多い。

予防対策

- 患者のふん便や吐ぶつには大量のウイルスが排出されるので
 - (1) 食事の前やトイレの後などには、必ず手を洗いましょう。
 - (2) 下痢やおう吐等の症状がある方は、食品を直接取り扱う作業をしないようにしましょう。
 - (3) 胃腸炎患者に接する方は、患者のふん便や吐ぶつを適切に処理し、感染を広げないようにしましょう。
- 特に、子どもやお年寄りなど抵抗力の弱い方は、加熱が必要な食品は中心部までしっかり加熱して食べましょう。また、調理器具等は使用後に洗浄、殺菌しましょう。

参考：ノロウイルスにはアルコール消毒は効果がありません。次亜塩素酸ナトリウム（塩素系の漂白剤等）による消毒が必要です。消毒方法等の情報については、下記ホームページあるいは各保健所へお問い合わせください。

(参考)

沖縄県感染症情報センター（週報）

<http://www.idsc-okinawa.jp/>

ノロウイルス感染集団発生 2009/10 シーズン

<http://idsc.nih.go.jp/iasr/noro.html>

ノロウイルスに関する Q&A（最終改定：平成 22 年 11 月 15 日）

<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/kanren/yobou/dl/040204-1.pdf>